

楽心のせし



# 奥多摩

《第56号》

令和2年(2020) 1月15日

(一社)奥多摩観光協会

～「ガイドの会」発足から20年を迎えるにあたり～



絵 大澤新次

## 新年のご挨拶

新年あけましておめでとうございます。今年はいよいよ2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。昨年のラグビーワールドカップのように、地域と選手との交流、感動的な競技の数々を期待しましょう。

さて、奥多摩友の会のイベントをガイドする「名人・達人観光ガイドの会」は、2020年度で20年を迎えます。2000年にガイドの会が立ち上げられて以来、今まで支え続けていただいた友の会会員のみなさまには、心より感謝申し上げます。

そして、20年間にわたり大きな事故も無く、安全に会員のみなさまをご案内できたことはなによりうれしいことです。イベント実施一週間前には、悪天候等の余程の事情がない限り、担当ガイドが下見を行い、必ず安全確認を実施した上で当日のイベントに備えてきました。また、これからも先輩ガイドが築いた豊富な経験と知識がガイドの一人ひとりに受け継がれ、会員のみなさまにお届けできることを願ってやみません。

奥多摩町には、平成29年度212万2千人（西多摩広域行政圏協議会発表）の観光客が訪れました。オリンピックイヤーの今年はさらに増加することが予想されます。これからも更にご多くのお客様に来町していただき、それを地域活性化に結びつけ、地域住民も元気になる方策を求め続けていくことが大事なことだと思います。記念すべき本年もどうぞよろしくお願いいたします。

奥多摩町観光協会会長 原島俊二

# 奥多摩山歩きワンポイントアドバイス ～令和の春に見直す山登りの基本～

冬は空気が澄み山の展望に最適な季節です。眺めていると、あの山この山と希望が湧いてきます。今回は山歩きの基本中の基本とも云える地図について取りあげてみました。地理院地図や最新のアプリを活用し、自身のレベルアップのためにも充実し計画を立てましょう。

## I. 電子機器は万能ではない

基本は万に備え紙ベースの登山地図や地形図を必ず用意したいものです。その上で登山に特化したハンディーGPSや日頃から慣れ親しんでいるスマホのアプリを上手に使いこなして欲しいものです。



GPS



スマホ

どちらを選ぶかは予算と使い方次第。

一般的に山ではGPSの方が堅牢で電池寿命が長持ちし、スマホは外部との貴重な通信手段でもあることです。

次に紙ベースの登山地図や地形図については、一昨年このシリーズで取り上げてきたので、今回は代表的な3種類の紹介のみにしておきます。



山と高原地図(昭文社)



登山詳細図(吉備人出版)



地理院地図(国土地理院)

## II. 地形図のダウンロード

まずはスマホでもパソコンでも良いので、インターネットの環境があれば、国土地理院の地理院地図を検索し、1/25000地形図を無料でダウンロードをしてみましょう。

はじめに日本全体の地図が表示されるので、目的の位置にカーソルを合わせ拡大していくと、基本となる縮尺1/25000の地形図が表れてきます。次に機能から設定を選び、方位線やその地域における磁北線を引くことができます。

地理院地図 | 国土地理院  
地理院地図



上の図は御岳ビジターセンター周辺ですが、この辺りの磁北線は西に7度30分傾いています。利用にあたっては、この線に方位磁石の磁針が並行となるまでスマホなどを動かして目的の方向を定めていきます。また、ツールから作図や計測、印刷などを選び、紙に印刷して持ち歩くこともできます。

## III. スマートフォン用の地図アプリ

山と高原地図のスマホ版や、ジオグラフィカなどナビゲーションに特化したアプリも多く利用されています。ここでは何と言っても無料で利用できるのがうれしいYAMAPについて取りあげてみます。



このアプリは地理院地図を基本とする、登山用やウォーキング用地図など山歩きの愛好者に優しい機能が満載です。

地図表示の切り替えにより50m毎の計曲線上にその標高を表示し、また山小屋の名称や公衆便所の位置表示迄をもすることができます。

## IV. 地図読みは慣れて親しむのが一番

最近のアプリは多くの機能が満載です。この機能をすべて使う必要はありませんが、まずは地図に親しみ慣れることです。そのうえで必要なら、有料の機能をも買い足し、更に使い込んでいくことです。携帯電話のサービスエリアは国内人口の99%以上をカバーしていますが、面積比ではまだまだ不感地帯の多いのが現実です。山では紙ベースの地形図との併用で、安全を重視した自立型の登山者になりたいたいものです。(富士 光男)

## ガイドの会発足から 20 年を迎えるにあたり (その2)

### 「元気を保つために」

さて、私はガイド経験 20 年を経て、80 歳になりましたが、高齢になると気力はあっても体力と能力は低下するものと、聞いてはいました。全くその通りでした。これからの話は誰にも当てはまるとは限りませんが、参考にさせていただければ幸いです。

定年になれば、毎日好きな事をやって、楽しくおかしく暮らしていけると思っていました。しかし現実はそのようなあまいものではありませんでした。人は仕事をしながら、その合間で趣味や旅行を楽しみ、地域のボランティア活動等を行うのがベターであって、サンデー毎日の身では体をもて余す日が続いてしまいました。定年から2年目、新聞のガイド会員募集の記事を目にし、やってみたくて応募しました。

とは言っても、月に2~3回のガイドの仕事では、満足できず、体力と能力は衰える一方でした。

そこで始めたのが簡単にできるウォーキングでした。ただコースを歩くだけでなく、四季の景色を楽しみながら身体が鍛えられ、体調に合わせ自由に距離と負荷が変更できる道。すなわち野鳥、草花、樹木が楽しめ、芝道、坂道、階段があり、水分補給、トイレが出来る河川敷、神社、公園、コンビニ等をコースの中に設定し、体調に合わせ、毎日歩く事にしました。

特に7年前から高齢者向きの「ヨガ教室」に通い、毎日朝・昼・晩 30 分程軽く「ヨガ」をやっています。特に朝は「ヨガ」・「ラジオ体操」・「ウォーキング」を済ませてから朝食を摂っていて、病院通いや買い物は、雨が降らなければ歩く事にしています。

また、担当イベントの下見1週間前には、裏高尾方面（城山・景信山・堂所山・陣馬山）に必ず足慣らし登山をする事を心掛けています。

私の病気に対する考えは、病気の「病」は「やまい」で半ば運命が持ってくるものであり、医師と医薬に任せるもの。病気の「気」は気力の気であり、本人が「やる気」「治す気」「続ける気」を持って病気に挑戦する事。決して「弱気」にならない事です。但し、限界を知る事（無理をしない事）も大切です。

もう一つは、なるべく暇な時間を持たない事です。人から何か頼まれたら、出来る事なら何でも

やってみるんです。人の役に立つことに積極的に参画し、周囲から信頼される事に生きがいを感じられたら、心身共に健康になれるのではないかと考えています。

そして、楽しく人生を送る（登山する）には、普段から身体を鍛えておく事が肝要かと考えます。「山で鍛えるのではなく、鍛えてから山へ登る」事ですね。

私も何時ガイドを卒業するか分かりませんが、毎日健康維持に努力を重ね、多くの方々に「奥多摩の自然と山登りのすばらしさ」を知っていただける様、仲間と家族の協力に感謝しつつ、がんばっていきたくて考えております。

（田中 信義）

## イベント No.24 山里歩き「峰集落周遊」

台風 19 号の爪痕が残り、前日の大雨の影響で実施できるか心配でしたが、当日は久しぶりの晴天。10月23日、参加者 10 名を峰集落に案内しました。

峰谷橋を出発し、二百年以上も前に建立された普門寺楼門を登り、皇女和宮碑がここに置かれるまでの数奇な運命に思いを馳せます。今年は柿のはずれ年のようですが、柿干にある幹回り 2.7m の柿はたわわに実り見事でした。峰生活センターを解放していただいたので昼食休憩はゆっくり。

森林患工房では、責任者の方から最近の鹿駆除についての説明があり、参加者からは熱心な質問が多くありました。駆除の効果が表れて、創業当初の15年前に比べて扱う鹿は半分以下に減ってきており、現在は町内の7店舗に鹿肉を卸しているとのこと。食べたことがある参加者もいて、鹿肉の味が話題になりました。

花入神社ではツガ、スギ、ヒノキの巨樹の大きさに圧倒されました。アキノキリンソウ、ノコンギクに秋の気配を感じ、ジュウガツザクラの可憐な花にも出会いました。「興味のある所をゆっくり観察できて楽しかった」、「登山も良いが山里歩きも面白い」などの感想。「往路を違うルートで歩きたかった」との意見には申し訳ありませんでしたが、復路に通る予定の峰林道が荒れていて捻挫しやすいため、往復ともバス道歩行に変更したことで安全に実施できたのではないかと思います。

（市川 陽子）

## 奥多摩樹木雑考

～ 巨樹の声を聞く ～

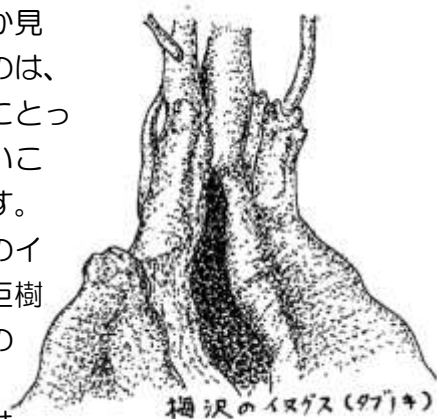
「奥多摩山里歩き絵図一梅沢一」のタイトルは「巨樹の声を聞く」となっています。梅沢の宝珠庵横のなだらかな小道を少し登っていった山裾に、タイトルの巨樹があります。それはイヌグス(イヌグスはタブノキの別名)の巨樹です。巨樹は森の精気が染み込んだ衣をまとして、その巨体を傲然と屹立させています。根元から5mほどの高さから、平板状に著しく肥大した根(板根)が四方に伸び、大地を喰い締めるように張り出しています。板根の分かれ目から分枝した4本の巨枝は高く高く伸び、樹冠の枝葉は天空がほとんど見えないほどに繁り、わずかな木洩れ日が林床に光を落ととしています。そこに30cmほど伸びたイヌグスの稚樹を一株だけ見かけました。イヌグスの故郷は海に近い暖かな森です。眼前のイヌグスの巨樹は、遠い昔に植栽されたものでしょう(古里のイヌグスの巨樹も同様)。冬は寒い奥多摩ですが、巨樹の回りに多く見られる寒さに強いシロダモのように、このイヌグスも冬の寒さに耐えながら年輪を刻み続けてきたのでしょう。イヌグスの稚樹

がたったの一株しか見かけられなかったのは、この地がイヌグスにとって最適の地ではないことを物語っています。それだけに、一株のイヌグスの稚樹は、巨樹にとってかけがえない仲間なのです。

イヌグスの巨樹は、まだまだ旺盛に樹勢を保ち続けるでしょう。幹のかたわらから萌芽している若い枝、幹や板根にみられる精力を蓄えた大きな瘤がその証拠です。巨樹のそばに小さな古い祠があります。イヌグスの葉のそよぎを受けながら、巨樹と神秘的なことばを交わし合っているのでしょうか。巨樹はささやきかけてきます。これからも、自然、静けさ、素朴、やすらぎ、神秘、仲間、そして時には目を閉じて自分の心と対話するひとときを大切にしたい。

(終わり) 絵も

(橋上 一彦)



梅沢のイヌグス(タブノキ)

## 奥多摩の野鳥

～ 洗練された美しい鳥 ～

ミヤマホオジロ(深山頬白):ホオジロ科  
全長16cm 冬鳥



ミヤマホオジロ

大澤 新次 絵

顔から頭にかけて、黄と黒の配色が美しく、頭頂の羽毛が立っていることの多い鳥です。Emberiza elegans という学名通りの上品で優美なホオジロ類に分類されています。秋11月頃から北方より越冬のため西日本以西に多く渡って来ます。東日本での越冬数は少なめですが、翌春4月頃まで見られます。針葉樹の林の中に潜んでいる事が多く冬鳥なので、さえずりもなく、チツという地鳴き声を聞ける程度です。ミヤマホオジロのミヤマは深山と書きますが、深い森に棲む鳥ではなく、個体数は少ないが、奥多摩の山麓の明るい林などでも見られます。ただ市街地の公園などでは、ほとんど見られません。冬季は地上で植物の種子を主に食べます。採食や移動の際には数羽から十数羽の小群を作る事が多くホオジロ、アオジなどと混群を作っている事もあります。私はミヤマホオジロを多くは目にしていませんが、奥多摩むかし道や日原、浮橋を渡って山のふるさと村方面へのコースで会った事があります。その優美な姿に胸が高鳴りました。今シーズンはぜひ会いたいと思っています。

奥多摩の山麓は広く野鳥の宝庫です。冬は落葉樹の葉が落ち野鳥観察のチャンスです。ミヤマホオジロに会えなくてもいろいろな野鳥たちがきっとみなさんを迎えてくれるでしょう。

(畑 幸夫)

## とっておきの山歩きガイド

### 一山里歩きの楽しみ—

奥多摩むかし道の後半部分で奥多摩湖の手



前にある水根地区を紹介し  
ます。

あえぎ喘ぎ  
登り切ったと  
ころにある浅  
間神社。奥多

摩湖を斜め前方に見下す尾根筋にあり、富士山信仰と関わりのある神社ですが、ここに天狗が祀られています。

### その1 いたすら天狗

町の教育委員会が発行した『奥多摩むかし  
みちの昔話』に出てくる天狗は、西久保の天  
狗山に棲み、夕  
暮になると村人  
や積荷を運ぶ馬  
をおどかし困ら  
せたそうです。  
しかし、月の出  
ない夜になる



と、長い鼻を伸ばして水根橋から中山橋まで  
ずらっと提灯をぶら下げ、村人たちを楽しませ  
てくれたということです。

この物語は、あくまでも後世に脚色された  
ものですが、実話としては、水根沢と多摩川  
が合流する付近は断崖絶壁が続き、夜は松明  
を頼りに歩いていると急に松明の火が消える  
所があり、何度も火を付けなおさなければなら  
なかった。村人は、この現象を「水根沢の  
天狗の悪仕業」と言っていたそうです。それ  
だけでなく、明治38年、この付近で炭焼き  
をしていた人が子供をさらわれ、探したとこ  
ろ、大木の上に枝で作った棚で無残にも股を  
裂かれ殺されていた事件がありました。さら  
に、木につるしておいた弁当が持ち去られる

と、これも天狗の仕業と言われていました。

ところが、小河内貯水池建設工事がはじま  
ると、大天狗・小天狗を祀った祠のある鎧塚  
は、掘り崩され、さすがの天狗も小河内村住  
民同様に移転せざるをえなくなりました。そ  
して天狗の引っ越し先は、さらに高みの浅間  
神社に合祀され、美人の木花咲耶姫このはなさくやひめと同居す  
ることになり、「水根沢の天狗の悪仕業」を  
返上し、すっかりおとなしくなってしまった  
ということです。

### その2 水根の産土神社

青目立不動堂からむかし道をはずれて六ッ  
石山方面に急坂を登って行くと間もなく真っ  
赤な鳥居を見ると、稲荷神社？を思わせる



「水根の産土神  
社」があります。

明治初年に編纂  
された『境村誌』  
に「山祇大神 所  
在 村ノ西ノ方字  
水根。坪數十坪。

祭神 大山祇命。 創立 寛文年間字水根山  
官林伐木ノ際勧請。 舊山神ト稱ス。 明治二年  
社號改替ス。」とあります。 寛文年間は、西  
暦1661～72年です。 現地の説明版には

「水根の産土神社 当社は山の安全、土地の  
平安を司る大山祇命を主神とし脇宮に愛宕神  
(火防)、稲荷神(豊作)、金山彦社(山の  
資源)、疱瘡神(疫病除)の四神を合祀」と  
あり、社殿の中央には、立派な髯をたくわえ  
た木造の大山祇命おおやまつみのみこと(山の  
神)の立像があります。 水  
根地区では、天狗と山の  
神との出会い、奥多摩湖  
を指呼にみる絶景を楽し  
むことができます。



(岡崎 学)

## 「名人・達人観光ガイドの会」ガイド紹介

- ① 氏名 ② 現役時代の仕事または今現在の仕事  
③ 出身地 ④ 現住所 ⑤ 趣味、特技 ⑥ ガイドになったきっかけは？ ⑦ 今までガイドをして嬉しかったこと、良かったと思ったこと ⑧ ガイドをする時いつも心がけていること

- ① <sup>にしはら じゅんじ</sup>西原 潤治 ② 無線の設計、サービス ③ 東京都 ④ 羽村市 ⑤ 水彩、作陶、釣り、ダイビング、水泳、空手、ボーリング、等スポーツ全般 ⑥ 定年の年に奥多摩でガイドの募集があった ⑦ ツアーの参加者が登山やハイキングを継続して楽しんでいることを知ったとき ⑧ 安全第一はもとより、参加者が奥多摩の山や自然を嫌いにならないように、多くの野や山に出掛けたいと思うようになることを願って行動しています

- ① <sup>うつぎ たかし</sup>宇津木 隆 ② JR東日本 ③ 東京都 ④ 八王子市 ⑤ 書道、工作 ⑥ 第二の人生の楽しみに（自然や山登りが好き） ⑦ 植物、樹木等の名前を多く知ることができたこと ⑧ ガイドの時お客様に怪我をさせないよう、安全に心掛け、無事終了すること

- ① <sup>さいとう ぜんいち</sup>齊藤 全一 ② JR東日本、その後不動産会社 ③ 群馬県渋川市 ④ 奥多摩町川井 ⑤ 山野草等写真撮影、絵画、家庭菜園 ⑥ 20代から奥多摩の山々を歩き、会社を退職と同時に奥多摩に家を建築、移住を機に ⑦ 多くの出会いから山仲間を知り合えること ⑧ 安全・安心で楽しい登山（次回も登りたいと思えるよう）

### 奥多摩登山道の状況です。

台風 19 号の影響で登山道にも被害が出ています。通行可のところでも注意して歩きましょう。

雲取山関係では、大ダワ林道、富田新道、唐松谷林道、三条ダルミから雲取山荘の巻道は通行止めです。鷹ノ巣山は稲村岩尾根が通行止めです。川苔山は、川乗林道、大丹波川沿い林道、踊平から獅子口小屋跡、大ダワから足毛岩が通行止めです。

三頭山はサイグチ沢、御前山はトチノキ広場から栃寄沢区間、大岳山は都林道大岳線終点から馬頭刈尾根分岐間、天狗滝上から馬頭刈尾根分岐間が通れません。（令和元年 12 月 6 日現在）

最新の状況は奥多摩ビジターセンターのホームページを！

## 冬から秋 奥多摩山歩き

イベント案内 令和 2 年 1 月 から 3 月

- No.31 1 月 18 日（土）日の出山から大塚山  
No.32 2 月 2 日（日）冬の惣岳山・岩茸石山  
No.33 3 月 14 日（土）早春の御岳溪谷を歩く  
No.34 3 月 26 日（木）早春奥多摩むかし道

令和元年度も以上のイベントをもって終わりとなります。皆さん満足いただけたでしょうか。振り返ってみますと、6月はシャクナゲが満開だった笠取山、苦勞して辿り着いた急登の鷹ノ巣山。10月台風や雨の影響で残念ながら中止になった雲取山と大岳山。

来年度も素敵なイベントを数多く準備しています。お楽しみに。



台風 19 号の影響により奥多摩町でも多くの被害が出ました。10月11日から雨脚が強まり、13日の未明にかけての総雨量が610mm（小河内地区）を記録しました。町内では日原街道大沢集落先の道路が日原川の侵食により崩落、日原の住民は一週間以上孤立しました。現在は日原地区から崩落地まで自治会で送迎しています。また、栃久保の根元神社下斜面が崩落し、電柱が倒れ除ヶ野から安寺沢地区が停電になりました。この停電により断水となり、楽しみにしていたラグビーワールドカップ、日本対スコットランド戦はラジオでの観戦となりました。

その他奥多摩町全域で一週間以上断水が続き、もえぎの湯の無料開放、自衛隊による入浴支援で古里小校庭に仮設のお風呂の設置、また、水道局、自治会、町による飲料水の自宅までの配布など多くの方に支援をしていただきました。東日本大震災以来の電気のない生活、また、一週間以上も水のこない生活を体験して感じたことは、当たり前にある物、実は多くの人の毎日の努力によって支えられているということです。トイレを使用するたびに 4Lの水を毎回タンクに入れました。水、電気のありがたさを感じた一週間でした。（小峰 一郎）

次号発行予定：令和 2 年 4 月 5 日

発行	一般社団法人 奥多摩観光協会
住所	〒198-0212 奥多摩町水川 210
電話	0428-83-2152 FAX 0428-83-2789
編集	名人・達人観光ガイドの会